

# 霜

# 降

能村 研三

鷹の木文庫

昨年の一月号の本欄で、「発行所分室」という一文を書いたが、市川グランドホテル近くの「市川分室」は余りにも狭く、支障をきたしていたので、昨年十月に新たな所に移転することになった。

新しい分室の場所は同じJR市川駅の近くだが、国道を渡り真間山弘法寺の参道を少し入った所で、閑静な住宅街にある。部屋数も三部屋あり、編集部や業務部の皆さんが仕事をする部屋の他に、創刊号からの「沖」のバックナンバーを保管する書棚があり、独立した室を「鷹の木文庫」と命名し、書庫を作った。

野田に住む俳人秋尾敏氏が、自宅に併設して「鳴弦文庫」という図書館を開いておられる。この「鳴弦文庫」は、主に近代俳句の資料を収集している私設図書館で、氏のお父様の河合凱夫氏と、秋尾氏の蔵書がもとになっている。河合凱夫氏が鳴弦楼という別号を持っていたことが

霜降や積みたる薪の芯赤し  
ちる前の昏みの時の山もみぢ  
水の音眠らず山は眠りけり  
朴落葉ふみて確かな音かへる  
節ごとに竹の力や神の旅  
神の留守衝動買ひに悔いはなし  
いち早き冷よぶ紙を漉き重ね  
綿虫の徒党ありあり見ゆるかな  
枯蓮のいま紊乱の限りかな  
大根の干しぶり老の家らしき

ら、その名に由来しているそうだが、ここには明治時代の俳書が多数収集されていて、江戸末期から近代初期にかけての旧派の宗匠の墨跡を見ることができるといふ。

「鷹の木文庫」には「沖」創刊からの五十数年の同人、会員が作られた句集や評論集を一堂に集めた他、先師登四郎の書庫にあった『折口信夫全集』や『水原秋櫻子全集』『大野林火全集』など、今まで書庫で眠っていた貴重な登四郎蔵書も公開することにした。

まだ図書室としてのきちっとしたコンセプトなどは作られていないが、徐々に同人の識者の意見を聞きながら整備していきたいと思っている。図書の閲覧に加えて、貸出しもしたいと考えている。

定期的な公開日などまだ定めていないが、今月開かれる新年俳句大会の前に希望があればお見せしたいので、是非立ち寄りいただきたい。

能村 研三